

～R6.道徳通信「さくら moral education」第2弾～

12月は人権月間です。学校では人権集会や人権に関する授業などに取り組んでいます。特に道徳教育と人権教育は深い関連があり、それぞれの役割は非常に大きいものがあります。

今年度は、11月27日に6年生が道徳科の授業で人権教育に関連した授業を行いました。資料は「心をつなぐ音色―辻井伸行―（なりたい自分に）希望と勇気、努力と強い意志」です。道徳科の授業のねらい「主人公の生き様を追いながら、夢や希望の実現のためにあきらめず努力することの大切さについて、児童が自分とのかかわりで考えを深めていくこと。」に、人権教育の視点

- ・障がいにより、偏見や差別を受けている人の辛さを共感的に受容したり、考えたりすることができる。（感受性）
- ・誰に対しても偏見をもつことなく、公正、公平に接するために、どのような考えを大切にし、どう行動したらよいのかを考えることができる。（判断力）

を関連付け、授業を行いました。

子供たちの反応は、「目の不自由な主人公が、ピアノをととても上手に弾いていることがすごい。」と素直な驚きや感動を示しつつ、その裏側の努力にも気づき、主人公の心情を想像したり、主人公がピアノを続ける上で大切にしていることについて、考えを深めたりする姿が見られました。

多種多様な生き方が見られるようになってきた現代社会の中で、まさにこれから生きていく子供たち。様々な人と出会い、共存していく中で、何と向き合い、どう対応していくべきか。そして、一人一人がよりよい生活を送ることができるように、学校で、家庭で、地域で、共に育んでいきたいと思えます。

授業の様子

人との関わり ほっと😊なニュース

12月7日（土）は全市一斉土曜授業でした。城山西小は文化人の先生方をはじめ、たくさんの外部講師の方々による授業が盛りだくさん。その授業の様子を公開しました。様々な先生との関わり、その授業があるからこそその友達との関わり、先輩・後輩での関わり…。特に、5・6年生はお箏の授業を経て、これまでの先輩たちから受け継いできた伝統文化を、引き継いでいく儀式がありました。6年生は、残すところ大きな行事は卒業式のみ。大きな背中を見せ、引っ張ってきた6年生の姿を、しっかりと5年生が受け継いでくれることを期待しています！

